



岐大通 2013

2013 J.League Division2

第1節 ジェフ千葉 戦

5/6(月・祝) 19:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C 岐阜大好き通信(岐大通)

5/6号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : ジェフ千葉 2012 J2 2勝 9分 1敗 勝ち点 72 第5位

1965年の第1回・日本サッカーリーグ(JSL)に参戦(3位、優勝は東洋工業=現:サンフレッチェ広島)した古豪。以後、2009年にJ1で最下位となるまで4年もの間トップリーグでのプレーを続けた。JSL時代にリーグ優勝2回、天皇杯優勝3回、JSLカップ優勝3回。1986-87シーズンではアジアクラブ選手権を制し、日本で初めて『アジア1』となる。Jリーグ加盟後もナビスコカップ優勝2回。J1で最下位となった2009年は天皇杯でFC岐阜と対戦、岐阜が1-0で勝利(FC岐阜が公式戦で初めてJ1勢に勝った)。2010年からJ2。昨季は5位でJ昇格プレーオフに臨むも、決定戦で大分に0-1で敗れる。(吉田鑄造)

2013J2

順位表(暫定) 第12節

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から視て)

1	神戸	27p	+10	21	11	A
2	G大阪	24p	+12	21	9	A
3	長崎	24p	+5	15	10	
4	栃木	23p	+8	14	6	A
5	京都	19p	+8	21	13	H
6	山形	19p	+4	18	14	H
7	岡山	19p	+4	14	10	
8	千葉	18p	+9	19	10	
9	水戸	16p	+1	15	14	
10	福岡	16p	0	10	10	
11	徳島	16p	-3	15	18	H
*12	東京V	15p	+5	13	8	A
*13	松本	15p	0	12	12	A
14	富山	15p	-4	12	16	H
15	愛媛	14p	-2	10	12	A
16	横浜FC	13p	-3	13	16	H
	熊本	13p	-3	13	16	
18	札幌	13p	-4	11	15	
19	鳥取	11p	-8	9	17	
20	群馬	10p	-9	8	17	H
21	北九州	8p	-12	9	21	
22	岐阜	6p	-17	5	22	---

東京Vと松本は1試合少ない

次回 HomeGame

第14節 ロアッソ熊本戦

5/12(日) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

GW3連戦、ホームでの山形戦は引き分けて勝ち点1を手にしたものの、アウェイのガンバ大阪には0-2での敗戦となったFC岐阜。しかし、強豪ガンバ相手に恐れず最後まで戦ったことで、自分たちにできたこと、あるいは足りないものは何かが見えたはずだ。前節から導入した3バックシステムも、少しずつチームに浸透してきた。勝ち点は得られなかったけれど、得られたものが多かった試合と、前向きに捉えたい。さて、GW3連戦最後の対戦相手はジェフ千葉。現在は8位と若干出遅れた感があるが、それは今年のJ2リーグが大混戦(5位~18位が勝ち点6以内)のため。昨年は5位でプレーオフに進出し、今季の優勝候補にも目されているチームだ。しかし、我らがFC岐阜との対戦成績はリーグ通算で2勝1分3敗、2009年天皇杯での勝利を合わせると3勝1分3敗。ホーム戦では2勝1分1敗(天皇杯の熊谷はホーム戦)、昨年のリーグ戦でも1勝1分と、実はチーム力に比して相性の良い相手だ。しかも今節は現在9得点とリーグ得点王の#37FWケンペスが累積警告で出場停止。勝機はあると言えるだろう。だが、選手層の厚い千葉には、ケンペス以外にも#5山口智、#1米倉恒貴、#6田中佑昌、#22ジャイルなど、油断ならない選手がずらりと揃っている。最後までひたむきに走り抜き、諦めない気持ちで戦ったその先に、勝利が待っていることだろう。また、#1益山選手にとっては5年間在籍(1年は松本に期限付き移籍)した古巣との対戦になり、千葉に勝ちたい気持ちは誰よりも強いだろう。今節は益山選手の活躍にも期待したい。このGW3連戦は、シーズン序盤のヤマ場であり、その直前の3連戦(4/14~4/21)と合わせて、最も日程が過密な期間でもある。選手たちにも相当疲労が溜まっているだろう。特に現在の岐阜は(主力メンバーの)怪我人が多い。試合中の怪我がほとんどなので仕方ない部分が多いが、その分、苦しい選手起用が続き、残りの選手に負担がかかってしまっているのが現状だ。だからこそ、選手の重い身体を、気持ちを後押しする僕らの声援や拍手が必要だ。ホームでの歓声や拍手は、確実に選手たちの力になっている。GW最後の今日は、みんなで選手たちに声援や拍手を送り、そのプレーに一喜一憂してスタジアム全体を盛り上げ、そして最後は今季ホーム初勝利を、みんなで歓喜の万歳四唱で締めくくろう。(ささたく)

ALADDIN

何も無い店だけど・・・
心の花が咲く・・・
何も無い店だけど・・・
心癒される・・・
忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

「いらっしやいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。

休:火曜(定休日が変わりました!)



【第1節】岐阜 1-1山形

GW3連戦の初戦はモンテディオ山形。それにしても、先日まで寒かった（山形は前節、ホームでサポ動員して雪かきして、なんとか試合をやった）ってのに、この日は（空気はカラリと気持ちいいけれど）陽射しが厳しい中で

の対戦。さて、ウチのスタメンは...あれれ？ケガから復帰したはずの#5 C B 関田がない？（仲間のサポに聞いたら、前節の栃木戦で再び負傷したそう）試合中に怪我してしまうのは仕方がない部分もあるが、「怪我しにくい身体作り」は（フィジカルコーチのいない）今のウチでは難しいのかなあ...（溜息）。

で、試合に入って、あれれ？アラタが上がったままDFラインに返ってこない...と思ってたら、3バックだったとは（苦笑）。怪我で守備タイプの選手が少ない現状で、行徳監督の苦肉の策なんだろうな...と感じてしまった。

でも、急造(?)のシステムにしては、機能していたと僕は思う。序盤から相手のゴールに迫る、惜しいシーンがあったし、山形の攻撃にも守備が対応できていた。ただやはり急造のシステムのせい、時折集中を欠いたようなプレーでピンチを招いていた。前半42分の失点シーンはまさしくそれで、#19MF 秋葉に（それまでもミドルを撃ってきているのに）ボールがきたのに一瞬、誰もチェックにいかなかったため、狙い澄ましたミドルを撃たれ、もったいない失点。でも、選手たちは下を向くことなく、点を取り返そうと積極的に攻め出す。#27FW 樋口の惜しいシュートの直後、#2MF 杉山からのロングボールを、DFラインの裏に抜け出した#18FW 杉本が、飛び出したGKの頭上をフワリと浮かせたボールはゆっくりと美しい軌道を描き...そして、同点ゴール！沸き立つスタジアム。

後半も（流石にボールの支配率は山形の方が上だったけれど）逆転ゴールを狙って攻める。後半2分には、相手の不用意なボールをハットさんが奪い、#29FW 柴原に渡して決定的チャンス！だったんだけど、切り返した時に足が攀ってしまい、ゴールならず。スタジアム全体が頭を抱えたようなうめき声をした（苦笑）。何とか得点できないか...とジリジリしてた後半26分、#3CB デズモンドが負傷。あれはイエローだろう...と思ったけど、その怪我でデズモンドが交替。これでバランスが悪くなってしまい、山形に攻め込まれる時間が続く。しかし、「守護神」#31GK 時久のビッグセーブ連発！3点ぐらい防いでくれたんじゃないだろうか？ホントに今年の時久はキレてるよなあ...（感嘆）。

なんとか粘りきっての引き分け。「よく突き放されなかったなあ」と「あと少しで逆転できたのに」の、両方の気持ちが入り交じってた。だからまあ、「サッカーはできていた」と言っても良いんだと思う。厳しいGW3連戦の初戦を、山形相手に落とさずに勝ち点も得点も獲れたのは、まあ、及第点でしょう。

それにしても、同じ清水から期限付き移籍してきた#2樋口と#29柴原。年齢も（更には生まれ月も）同じなんだけど、（少なくとも今の時点では）昨年リーグ戦を経験した樋口の方が実力は上だ。やっぱり若手の試合経験って大事なんだなあ...。出場機会に飢えている若手」1リーガーのみなさん、まだまだ大歓迎ですからねー？（苦笑）（ささたく）

どうもおかしい。様子が変わる。そう思ったのはキックオフからどれくらい経った頃だろう。その違和感は、バクスタにいる僕から見て近いサイド、つまり岐阜の左サイドから漂ってきた。

「秀人とソメが近すぎる。」スタメンが発表された時から、どういう布陣なんだろう？と思っていた。新の右は鉄板として真ん中がデズと秀人、左に司かな？などと考えていたのだが、まさかまさかの3バックとは。けっこう長いことこのクラブとつきあってきたけど、3バックで臨んだ試合の記憶がない。少なくともJリーグに参入してからは初めてじゃないかな？ただ、3バックということに気づいたのはハーフタイムになってからで、前半では「これじゃ、5バック。」ぐらいにしか思ってなかったというお粗末さ。まだまだ修業が足りませんね、自分。

それにしても、3バック。つまり、最終ラインの枚数を減らすということは、前目、もしくは中盤の枚数を増やすことによって高い位置で優位に進めたいということだと思うが、ワイドに開いた二人、染矢と新があそこまで下がってしまうとFWや中盤の選手たちはキツイよねえ。オマケに、染矢の良さまで消えてしまう。ずいぶんとストレスが溜まってしまったんじゃないかな？染矢。なんでもないつまらないファウルをして判定に不満を露わにする場面も見受けられたけれども、気持ちはわかるがもったいない気もする。まあ、それも闘志の表れかもしれない。そんな厳しい状況でも、前半の柴原へのクロスを始め2、3本は相手にとって危険なクロスを上げていた。やっぱり、今のウチにとって欠かせない存在ではある。

とはいえ、5バック気味に引いていても、いとも簡単に何度もサイドの深い位置まで攻め込まれ、決定的な場面を作られて失点は時間の問題という状況の前半終盤、ついにゴールを奪われる。そのミドルを決められた場面はバクスタから見ていてもボールを持っている相手選手はどフリーで、シュートを撃つのに一番いい場所とタイミングを与えてしまっていた。実にもったいない。またしても、終了間際というべきか、あそこまでよくもちこたえたというべきか。できれば、前半は無失点で終えてほしかったところだ。

ただ、いつもと違うのは前半の内に得点を挙げ同点で折り返せたということ。大きな声じゃ言えないが、今季初の前半での得点（苦笑）。杉本は「初ゴールおめでとう！GKの位置を見ての冷静な判断からのループシュート。ネットを揺らすまでの時間が長かった。でも、これじゃ足りないから。もっともっと見せてほしい。一瞬の隙を突いた新のフィードもお見事。やっぱり、ホームでのゴールは震えるね。あとは、勝利に結びつけるだけなんだけど.....。5月までお預けか。次のホームではぜひとも万歳四唱したい。それから、デズのケガが軽傷でありますように。そう祈りつつ、次節の万博陸上競技場へ乗り込みます！

（ぐん、）

試合が終わった時の心境は安堵感だ。いや、ホントによく勝ち点1を獲ってくれた。「もう少しで勝てたのになあ」なんて、ハンバーグに入ってるタマネギの微塵切りの1カケくらいも感じなかったです。

メインスタンドから観ても、どうも染矢の位置取りが低過ぎて、でも後半になっても行徳監督が修正指示で飛び出してきてもなかったから、アレはおそらく監督の指示だったんだろう。試合後の記者会見でも行徳監督は「3バ

【第1節】G大阪2-0岐阜

ックをやってみました」と言っていたけど、アレを3バックと呼ぶのはちょっと大胆なんじゃないだろうか。システムに造形の深いスギヤマさんというジャーナリストが書いてた(1998W杯予選の加茂ジャパンについて、だけど)話で、「3バックといっても、守備的MFより低い位置に構えるサイドMFを『超守備的MF』と呼ぶなら『DF』と呼んだ方がわかりやすい。5バックはカウンターサッカーの典型的布陣で、プレスサッカーの正反対」というのをどうしても思い出してしまう。

実際、染矢も下がった3バックもとい4バック+染矢の守備体型でDFラインでなんとかボールは奪える。でも、その深い位置からヨーイドンのカウンターサッカーなんか構築していないし、ただ大きく蹴り返しては最前線で競り負けてポストも出来ずにボールを奪われ以下同文。後半の途中からほぼハーフコート・マッチの様相になってきた。走ってナンボのホームチームが相手より先にバテて動けなくなるのを観るのは結構ツライ。

行徳監督はかつて「高い位置で奪って早く攻める」って言ってたような記憶があるのだけど、相手のボールを奪うポイントがあれだけ低くなっては、そこから攻撃に行くには一度FWに出してしっかりキープしている間に味方の上がり待つ(ポストプレー)か、DFラインからロングボールを出して“かけっこ”に勝つかしかない。その意味で、“かけっこ”に勝って綺麗なループで同点ゴールを奪った杉本は見事。山形GKが不用意にちょっと前に出たのを見抜いてループを選択したのがよかった。

結局1-10のドロウで試合は終わるのだけど、デズモンドが負傷する直前、行徳監督が用意していた交代カードは柴原水野だった。もうバテバテでカラータイマー点滅どころじゃなくなった柴原の交代はまったく妥当だったのだけど、投入直前のアクシデント。この時、行徳監督は柴原水野の交代も行いつつ、デズモンドファビオの3人めの交代も敢行して新井をCBに下げるプランの準備もした(実際にファビオは出場準備でアップからベンチに戻ってきた)。しかし、交代はデズモンド水野。バテバテの柴原は最後まで前線で奮闘することになった。キツかっただろう。

けれど、この交代が勝ち点1を産んだとぼくは思っている。残り時間は15分、たしかに攻撃陣を増やした岐阜が勝ち点3を得る可能性もあったけど、それより終了したFC岐阜の交代に山形が対応して失点してしまい勝ち点0で終わる可能性の方が高かったのではないかな。試合の残り5分になって、もう1人のバテバテだった美尾に代えて森安。「この試合、きっちり勝ち点1を獲る」という強いメッセージをピッチに向けて発したことで、バテバテながらも選手の意味は統一され、勝ち点1を得ることが出来た。

だから、勝ち点1は「よくやった」とは思うけれど、「勝てた試合だった」とはホントにタマネギ微塵切りの1カケくらいも感じなかった。いまはこれが精一杯。精一杯をやり遂げた選手達を誇りに思いつつも、『その先』を考えると、なかなかシンドい。(吉田鑄造)

約10年くらいぶりの万博。ココもずいぶん屋台村が増えたな~と公園東口を降りて思った。あのバーに立ち寄って見たかったが今回は断念。次に対戦する時の楽しみにしよう(笑)。

晴れてるのに雨が降ったり、おかげでスタジアムに架かる虹を眺めたりと予想外のこともたくさんあったけど、一番ビックリしたのは雨上がりなのに試合前のピッチに水を撒いていたこと。ウワサで聞いてはいたけど、まさかこの状態でもやるなんて...。徹底してる。選手が滑らないか心配してたけど、岐阜が2回で大阪が1回だったかな?特に勝敗に影響したとは思わなかった。

結果は0-2。キックオフからかさにかかって攻めてきた大阪が先取点を取った後はギアを一段落とした感じ。ずっと耐える展開になるのは承知のうえだったけど、やっぱりシュート1本じゃ勝つのは難しい。この1本というのは、前半唯一のOからデズが放ったヘッドだけで後半は皆無だったということ。ネットを揺らした場面もあったけど、ハンドを取られてノーゴール。決まったと思ってたから残念至極。

大阪が思ったよりユルくしてくれてたんで(たよね?アレが仕様なら自動昇格は難しそう...。ヨソサマを心配してる場合じゃないが)、付け入るスキはあったと思うし、実際チャンスの芽はあったが生かしきれないのが歯がゆいよ。最近の常套手段になってしまった新井大作戦も代表DFには通用せず。それよりは、若手レンタルトリオに期待したい。でも、ポジション的にかぶり気味なのがなんともかんとも...

それにしても、デズがスタメンに入ってくれて本当によかった。向こうのエースFWにほとんど仕事させなかったんじゃないかな?秀人も安定してたし、次節の千葉戦でもこの調子でがんばってほしい。

あとはとにかく関係を深めてシュートを撃てる状況を作ること。撃てば何かが起きるし、撃たなきゃ何も始まらない。「楽しかった黄金週間」にするために、絶対ホームでの初勝利を!でも、「俺らの誇り」歌ってたら帰れなくなる。勝利を見届けると同時にダッシュしなけりゃならないのが心残り...、そういう状況待ってます!(ぐん、)

季節外れの夕立に遭ったけど、試合直前には上がり、美しい虹がかかった万博。これは吉兆.....と思ったけれど、やはりガンバ大阪。「なんで」2に落ちてきたの?」って言われてるチームは、甘くなかった(苦笑)。

なにせ、「速い」。足が速いというのではなく、判断や動き出しが速い。それにトラップの正確さ。ピタリと納めるから、なかなか奪えない。逆にウチの選手は(ガンバの選手と比べると)トラップが大きかったり、転がってくるボールを待ってるから、その隙を突かれてボールを奪われてしまう。また、ボールを奪った後のパスが(ガンバのプレッシャー故か)中途半端にちょこんと出して奪われたり、相手しかいない場所にパスを出してしまうシーンも目立った。そして、ガンバの中心選手かつ「日本代表の司令塔」、#7遠藤保仁.....(溜息)。悔しいけれど、やっぱりすげえわ。あんな嫌な、いつキラーパスを出してくるか判らない怖いプレイヤーを、(当然だけど)僕はJ2で見たことがない。

でも、だからといってウチがやられたい放題だったとは思わない。技術的には劣っていたかもしれないけれど、しっかりと3バック+2WBの“ほぼ5バック”で守備網を張って、粘り強く最後の段階で踏ん張っていた。あれだけボールを持たれていたのに、ガンバのシュート数は10本。#3時久のビッグセーブも...回数かな?前半の失点は、残念ながら#3デズモンドが前に飛び出して奪ったボールを奪い返されてしまい、空いたスペースを突かれてのものだった。試合終了直前の2失点目は、ちょっと余分だったかな...

攻撃陣も、ボールを奪った後の数少ない速攻で#2樋口、#28水野、#29柴原の(「レンタル三銃士」とでも言えばいいのかな(苦笑))3人が良い動きをしていたし、守備面でも前からボールを追いかけて守備の負担を和らげていた。特に#2樋口は、どれだけ走るんだ?ってぐらいに走っていた。ただ、みんなシュートに慎重になりすぎてる気がする。「いつ誰が撃ってくるか判らない」という感じにしないと、相手の守備は崩しにくい。それに、こちらの守備を整える意味からも「シュートで終わるのが大事」なんだから、もう少し思い切ってミドルを狙っていいと思うんだけどなあ...

ともあれ、選手たちは良い経験をしたと思うけど、負けてしまったのは変わらない事実。気持ちを切り替えて、勝利を目指して次に望んで貰いたい。(ささたく)

万博に来るのは何回目かだけど、前回の訪問は3年前のACL・河南(中国)戦だった。3年経って、舞台はJ2だ。諸行無常の響きを伝える祇園精舎の鐘の音がごいん.....。とはいえ、これまでにFC岐阜のアウェー戦は何試合か観に行っているけど、まったく味わったことのない感覚だった。スタジアム全体を上から覆っているような“天皇杯”的感觉。断言していいが、今年はFC岐阜とガンバ大阪は『同格』。なのだけど、どうしても「FC岐阜が格上に挑戦する」的な雰囲気があって、なんとはなしに少々面白くない(苦笑)。でも、試合前の紹介で出てくるガンバの選手には現役の日本代表もいるし、元・代表まで含めると、正直「ガンバはなぜこの戦力でJ2にいるのだ」という感想も持つてしまう。

そして、実際に試合はそうに進んでしまった。プレス機で何度もガシガシ押し付けるように、ガンバ攻撃陣はFC岐阜の選手全員を圧縮していく。気がつけば、前後10mもないエリアに10人全員が押し込められてしまう時間帯も。そんな中、デズモンドが前に出て相手ボールを奪おうとして失敗し、裏で相手FWをフリーにしてしまう。やはり、そこを見逃してくれるような相手ではなかった。

しかし、その後はFC岐阜も両サイドをワイドに使える時間も出てきて、互角とまではいかないけど見せ場は作れるようになってくる。その理由は、デズモンドがレアンドロをほぼ完封出来たことと、家長に倉田といったガンバの2列目攻撃陣が“縦の揺さぶり”を仕掛けて来なかったこと。そして、ガンバがこの戦力を擁してJ2に落ちてきた理由もそのままだった。ガンバ守備陣のバタバタぶりは樋口の奮闘もあるけれど、決してFC岐阜がよかったからというだけではない。

毎試合恒例となった(苦笑)時久のスーパーセーブ連発で、「これはもしかしたら圧倒的な戦力・資金力・動員力のガンバ相手に0-1で終われるんじゃないか?」などと思ってしまった。実は0-1だって「立派な“負け試合”」なのだから

満足していいわけじゃない。しかも、『同格』同士のリーグ戦なのだから。でも、そんな意味不明な期待は平井に終了間際に2点目を決められて消失してしまった。0-2 見せ場はあったような気がするのだけど、岐阜のシュートは1本だったらしい。絵のように鮮やかな“完敗”じゃないか。0-1で終わっていたら、もしかしたらぼくは満足したかもしれない。でも、『格上』と『格下』の対戦じゃないんだから、それは恥ずかしいことだ。結局、0-2になったことで、普通に「負けた悔しさ」が心の中に戻ってきて、“天皇杯”的な感覚はなくなった。

ガンバとは7月にホーム・長良川で対戦する。相手サポの方が倍以上の数になってしまう可能性だってある。でも、自戒を込めて繰り返すけど、確かに相手は強いけれど、今年はFC岐阜はガンバ大阪と『同格』だ。まず、そこから始めよう。(吉田鑄造)

【ユース】強豪との連戦を控えて

我らがFC岐阜ユースU-18(以下FC岐阜ユース)は4月28日(日)にクラブユース選手権の1次予選の試合が有りました。対戦相手は尾張クラブ。愛知県2種(高校・ユース世代)の西尾張リーグに所属しているクラブチームです。この日は未観戦でしたが、結果は2対0で勝利する事が出来ました(パチパチパチ)。

次の試合はクラブユース選手権1次予選は5月5日(日)に愛知FCと、翌6日(月・祝)には岐阜県のG1リーグの試合で中京高校との対戦が有ります。つまり連戦!愛知FCは愛知県では県2部リーグに所属していますが、これまでFC岐阜ユースが出場出来ていないJユースカップの全国大会に昨年クラブチームの代表として出場した強豪チーム。一方の中京高校も昨年度のG1リーグ覇者であり、強豪チームとの連戦は正直厳しいですね。でも同様の事は何処のチームも経験すること。一戦ずつしっかり戦い切って、吉報を届けて欲しいです。

頑張れよ!応援しているから!!FORZA!FC岐阜ユース!!(シュナ)



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998